

## 学会設立 20 周年記念誌の発刊にあたり

1992 年 11 月 21 日に設立された本学会（当初は「全国養護教諭教育研究会」、1997 年度より「日本養護教諭教育学会」に改称）は、2012 年に設立 20 周年の節目を迎えました。これを記念して、「学会設立 20 周年記念事業」として 4 つの企画を準備し、第 20 回学術集会（10 月 6 日～7 日）において「①記念集会（記念特別講演、常設展示、ミニシンポジウム、祝賀会）の開催」「②学術集会における一般演題の領域区分の提示」「③養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第二版〉の発行・配布」を行いました。「④記念誌の発行」は、①～③の内容も記録するために最後の事業として取り組んでまいりました。

本日、関係者各位のご協力と執筆者の多大なるご尽力によって、日本養護教諭教育学会の「20 年間のあゆみ」を記す貴重な資料としてお届けする運びとなりました。ここに深く感謝申し上げます。

『学会設立 20 周年記念誌』は、「20 年間の回想録に留めることなく、『学会事業のまとめ』という資料的意味をもたせることで、本会の歴史をたどり、今後の発展にむけた課題整理に活用できるものにする」ことをコンセプトとして作成しました。したがって、前半は回想的なもの、後半は資料的なもので構成しました。

前半部分は、学会運営を支えてきた歴代の役員全員による振り返りや今後への期待、設立時より 20 年間継続して会員であった方々の思いなどが述べられています。記念誌には欠かせない関係学会および関係団体からのご祝辞も掲載しました。加えて、学会設立 20 周年記念事業について紹介しました。

後半部分は、学会の様々な事業を表 1～表 8 にまとめて報告させていただきました。P.53 からの「VI 学会のあゆみ」に示した表 1 は「学会の活動」全体と特記事項を記し、20 年間の足跡を知ることができる資料としました。P.63 からの「VII 学会の事業紹介」は学会の顔である「学術的活動」をはじめとして、会員に対する「研究活動支援」や「情報提供・交流支援」についてまとめました。また、養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動を行うことを目的としている本学会が、全国組織の学術学会の責務を果たすべく行ってきた要望は「社会的活動」として資料掲載しました。さらに、「学会の諸活動を支える基盤」として会員数の変化と学会活動費目の変化の概要をまとめました。

後半部分の資料は、これまでの「通信及びハーモニー」60 号分（第 1 号～発行予定の第 60 号まで）、「学会誌」17 冊分（創刊号から第 16 巻第 1 号まで）、「研究大会及び学術集会の抄録集」20 冊分（第 1 回から第 20 回まで）、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」2 冊分（第一版と第二版）、理事会などの議事録をもとに作成しました。20 年間の膨大な内容をまとめましたので不十分な点はあるかと思いますが、学会設立以降の道筋を知るとともに、学術的な組織としての発展の様子を捉えることができるのではないかと思います。

我々の文化では 20 年は二十歳の成人を迎え、自立の時となります。誕生してからおとなになるまでの 20 年間は、その後の 20 年では決して味わうことのできない「育ち」の歴史があり、たくさんの方々の努力と感慨が詰まった月日となります。このことは学会の発展においても同様と言えます。学会設立の前年に現職養護教諭の全国組織が設立されたこと、学会設立の翌年に養護教育専攻という養護教諭のための大学院ができたことなども時代の趨勢であり、今なお、時代をこえて変わらない価値ある「養護をつかさどる」を追究しつつ、時代の変化に伴う諸課題に柔軟に対応する養護教諭の未来を指向することが求められています。

今回の編纂を通して本学会の功績を確認するとともに、過去の様々な出来事を想起することで「温故知新」の言葉のように、設立時の思いを大切にしながら今後の学会活動を展望していく必要を感じました。20 周年を契機として、今後も養護教諭教育にふさわしい学術研究の充実をはかるとともに、その成果を実践や養成教育、現職研修に還元していくこと、養護教諭の専門性を支える学問体系を提示していくことなど、「養護教諭教育」の具現化に努力する必要があります。日本養護教諭教育学会が確実な歩みを進めていくことを衷心より祈念しつつ発行の言葉と致します。

末筆になりましたが、第 III 期理事長として会員の拡大と様々な要望活動にご尽力くださいました天野敦子先生に深くお礼申しあげ、ご冥福をお祈りしたいと思います。

学会設立 20 周年記念誌編集委員会委員長 後藤ひとみ